

## 浜岡原子力発電所 中央制御室床下ケーブルピット内の点検について(続報)

2015年12月15日

当社は、東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機の中央制御室床下において、ケーブルおよび分離板に不適切な状態が確認されたことを踏まえ、水平展開としてケーブルおよび分離板の状態を点検していたところ、分離板1箇所にも不適切な状態を確認しました。(2015年11月11日お知らせ済み)

このたび、4号機の中央制御室床下におけるケーブルおよび分離板の状態について点検結果をとりまとめたことからお知らせします。前回お知らせした箇所を含め、ケーブルで14箇所、分離板で178箇所に以下の表に示す状態を確認しました。

不適切な状態については、火災の延焼防止機能のための区分分離(※1)に影響を与える可能性があるものの、中央制御室床下の大半のケーブルに難燃性のケーブルを使用し火災発生リスクを押さえていることに加え、常駐する運転員による火災の早期発見・早期消火が可能であることから、複数の安全区分のケーブルが火災によって同時に機能を喪失することは防止できるものと考えています。

今後、必要な処置をおこなうとともに、原因を究明し対策をおこなってまいります。また、ケーブルについては、点検結果を踏まえ詳細な調査が必要な箇所が他にあり、ケーブルのルートを確認するなど必要な追加調査をおこなうとともに、中央制御室床下以外に現場のケーブルトレイ(※2)に敷設されているケーブルについても状態を確認してまいります。

表 不適切な状態の内訳

	箇所数	状態
ケーブル	14	金属製の電線管に収納していないケーブルが安全系2区分をまたいで敷設されている(別紙 ケース1参照)
分離板	100	分離板を金属製の電線管に収納していないケーブルが貫通している(別紙 ケース1参照)
	37	分離板が設置されていない(別紙 ケース2参照)
	41	分離板が破損している(別紙 ケース3参照)

(注) 同じ箇所でもケーブルと分離板に不適切な状態があった場合、ケーブルと分離板のそれぞれで集計する

※1 安全機能を有する系統・機器を多重化するために区分を分けて管理しています。

※2 ケーブルトレイとは、現場にケーブルを敷設するための金属製の受け皿のことです。

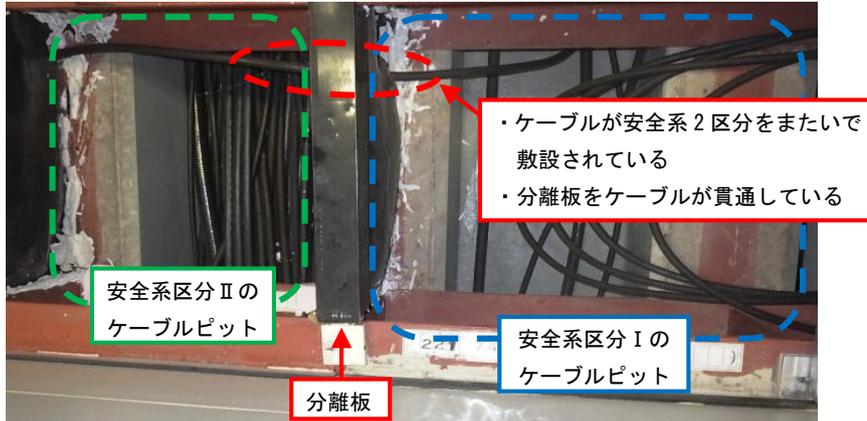
別紙 ケーブルおよび分離板の確認結果(代表箇所の写真)

参考 中央制御室床下ケーブルピットのイメージ図

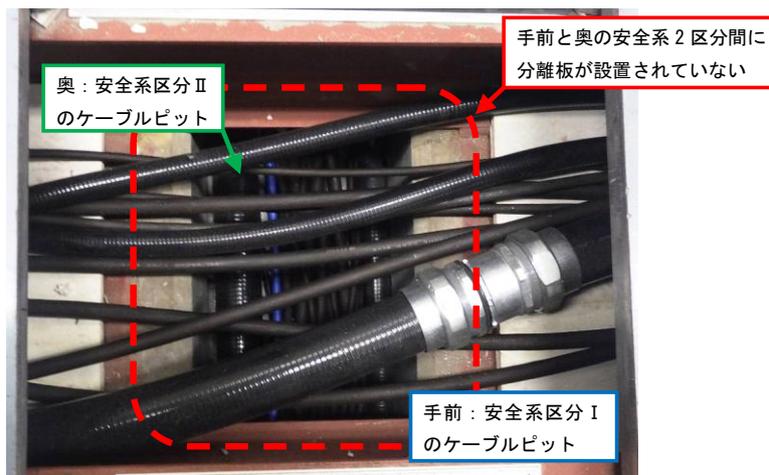
以上

ケーブルおよび分離板の確認結果（代表箇所）  
（中央制御室床下ケーブルピットを上から覗いた状態の写真）

ケース1（分離板として1箇所、ケーブルとして1箇所と重複して集計しているケース）



ケース2（分離板として1箇所と集計しているケース）



ケース3（分離板として1箇所と集計しているケース）



中央制御室床下ケーブルピットのイメージ図

